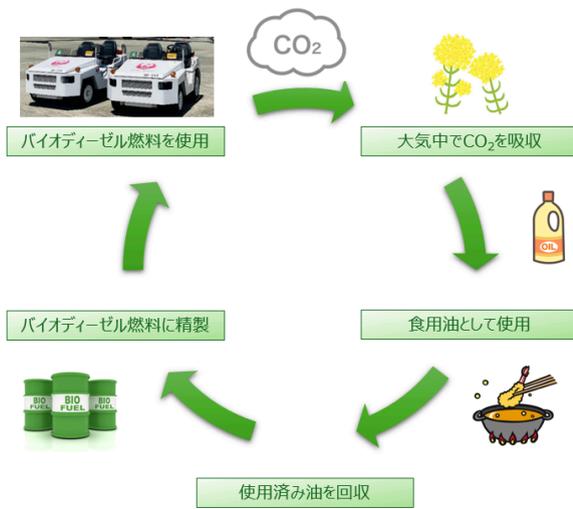


石垣空港で初めて作業車両にバイオディーゼル燃料を使用開始
～地産地消エネルギーで空港の脱炭素化を加速～

JALグループは、CO₂排出量削減に向けた取り組みの一環として、石垣空港で初めてトーイングトラクター(*1)およびベルトローダー(*2)にバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を、2026年2月26日(木)より使用を開始します。



CO₂循環イメージ図



トーイングトラクター



ベルトローダー

この取り組みは、石垣空港内の飲食店や石垣島内のご家庭から回収された廃食用油を原料とする、地域内完結型のサプライチェーンにより実施します。やえやま環境開発株式会社(沖縄県石垣市)が廃食用油を回収し、株式会社アトラス(沖縄県糸満市)がB100燃料へ精製、りゅうせきグループ(沖縄県浦添市)が保管・販売し、当社車両へ供給します。地域で生まれた資源を地域で活用する「地産地消」モデルにより、調達・輸送に伴う環境負荷の低減と地域経済の循環を図ります。

B100燃料は、植物由来の廃食用油から精製したバイオディーゼル燃料です。原料となる植物は成長過程で光合成によりCO₂を吸収しているため、ライフサイクルでのCO₂排出量が実質ゼロとなり、軽油使用時と比べて1リットル当たり2.62kgのCO₂排出量削減の効果が見込まれます。

JALグループは、2050年までにCO₂排出量実質ゼロの実現を目標に掲げています。これからも、持続可能なエネルギーの活用と地産地消による循環型エネルギーの取り組みを推進し、県内企業と協力して空港および航空業界全体の脱炭素化に貢献してまいります。

また、日本トランスオシャン航空(JTA)では、沖縄地区におけるJALグループのSDGsの活動として、「美ら島」沖縄の素晴らしい光景がいつまでも続くように、子供たちの笑顔を未来につなぐための想いを込めて「結∞ACTION」を制定し、さまざまな取り組みを進めております。

JTA 結∞ACTIONの詳細はこちら <https://jta-okinawa.com/sdgs/>



想いを結。未来へ結。
結∞ACTION

【運用概要】

- 運用開始日 : 2026年2月26日(木)
- 対象空港 : 石垣空港(沖縄県石垣市)
- 対象車両 : トーイングトラクター2台、ベルトローダー2台

(*1)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

(*2)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物をバルク貨物室へ搬送する車両

以上